

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3691700078 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 イトカワ | | |
| 事業所名 | グループホームあわ | | |
| 所在地 | 吉野川市鴨島町鴨島538-16 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年8月1日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階 | | |
| 訪問調査日 | 平成30年9月19日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内には協力医クリニックや眼科、養護老人ホームがあり、安心して生活を過ごして頂けるように支援しています。行事では近隣の幼稚園の来訪や、8月の花火大会では屋上からの観覧等喜んで頂けるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市の中心地に位置し、利用者の居室から通勤や通学などの日々の流れを感じることでできる場所にある。「介護される人も介護する人も仕合わせ」という理念を掲げ、利用者一人ひとりの思いの把握に努め、健康で生きていることを喜び、楽しく感じてもらうためにサービスの質の向上に取り組んでいる。併設の医療機関の協力のもと、24時間対応可能な体制を整備している。同一法人の福祉施設とともに行う行事が、利用者の楽しみの一つとなっている。幼稚園児の来訪や敷地内駐車場で開催される街角コンサート、ごころ祭り、阿波踊りなどに参加し、地域住民との交流を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「介護される人も介護する人も合わせ」と言った理念を作り、一人ひとりの心と感情を大切に健康で生きていることを喜び楽しく感じて頂けるように意識しながら業務に取り組んでいる。 | 事業所は、理念を事業所内に掲示したり、職員が朝礼時に確認したりして共有に努め、日々のケアに取り組んでいる。職員は、地域密着型サービスの意義や役割を踏まえた理念の見直しや目標作成を検討している。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の街角コンサートや五九朗市等に参加したり、併設施設の抹茶会やオカリナ演奏会等のイベントに参加している。また近隣の児童との交流の機会を設ける等地域の一人として交流に努めている。 | 事業所は、利用者と職員で散歩や買い物に出かけ、地域の人と挨拶を交わすなどして交流を図っている。敷地内駐車場で開催している街角コンサートや阿波踊りに参加している。季節に応じ幼稚園児の来訪がある。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方から認知症の支援方法等の相談を受けた時には、支援方法や認知症を理解して頂けるように説明等を行っている。 | | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営会議では行事報告、取り組みや情報、入居状況、利用者の生活の様子等を報告している。家族、地域住民、市職員から気づきや助言を出してもらい、職員間で話し合いサービス向上に取り組んでいる。 | 2か月に1回以上の開催に至っていない。事業所の報告や情報交換を行っているが、具体的な課題や事業所が目指す取り組みに向けての話し合いの場には至っていない。 | 2か月に1回以上、開催されたい。会議は、地域の理解と支援を得るために、老人会や婦人会、ボランティア、警察、消防団等の参加を得て開催し、出された意見は、サービスの質の向上に活かされたい。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 毎月、入退所状況報告書を市担当者に提出している。その際に現状報告や運営の相談を行っている。また課題等が発生した場合は電話で相談をしている。 | 毎月、職員は、市担当窓口を訪問して事業所の運営や取り組みについて報告している。また、市が開催する地域密着型サービス連絡協議会や医療介護連携研修会に参加し、協働関係の構築に努めている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 事業所内で身体拘束についての研修会をしている。利用者一人一人の状況を把握し、のびのびと生活出来るように開放感のある自由な空間を作っている。 | 事業所は、身体拘束をしないケアを職員間で共有し、実践に取り組んでいるが、マニュアルの作成や勉強会、新任・現任者研修、外部研修の参加には至っていない。 | 運営推進会議にて、身体拘束の弊害を説明し、事業所の取り組み方針やマニュアルを明示されたい。また、勉強会を通して、利用者が安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するための工夫に取り組まれたい。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 事業所内の研修だけでなく、日々のケアを通して接遇やマナーを意識し、思いやりのある声掛けが出来るように職員間でも気を付けている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|
| | | | 自己評価 | 実践状況 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 以前に成年後見人制度を利用している入所者がおり、事業所内でも話し合い知識が身に付くように努めている。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所時、契約書を分かりやすく説明し、利用料の変更時には個別に納得が得られるように説明し同意を得ている。またケアの取り組みや重度化・看取りについてもご家族に意向を確認している。 | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の来訪時に入所者の生活の様子を伝え、その際に意向や希望を聞いている。職員から家族に積極的に話しかけ、会話のし易い雰囲気作りに努めている。 | 事業所は、家族の来訪時や利用者との会話をとおして、意見や要望を把握するための対応に努めている。出された意見や要望は、関係者間で話し合い、サービスの質の向上に繋げている。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 朝のミーティング時に支援経過を確認したり意見交換を行いコミュニケーションを図っている。意見や要望がある時は個別に面談の時間を作っている。 | 管理者は、職員が働きやすい職場を目指し、日頃の業務を通じて職員の意向を把握するよう努めている。ミーティングで出された職員の率直な意見や提案を取り入れ、運営面に反映している。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 勤務状況を把握し、個々の努力や実績を評価し、職員処遇への反映や向上心を持って働けるような環境を整えている。 | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 事業所外の研修に参加し、取得したことを事業所内で再度勉強会を行い職員全員が身に付けている。また事業所内で年間計画を立てスキルアップを図っている。 | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 吉野川市地域密着サービス事業所連絡協議会に参加し、情報交換を行い交流や連携を図っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 不安な事や希望等を聞き出来るだけ要望に沿えるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族に出来るだけ分かりやすく説明し、納得が得られるように対応している。またいつでも相談が出来るような雰囲気作りを心掛けている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談内容に応じて必要なサービスを提案し、本人と家族の想いや状況を確認しながら支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は常に入所者に敬意を表し、共に生活する者同士としての信頼関係を築くように努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者の生活状況を来訪時に詳しく伝え共有している。行事や運営会議の参加を依頼し協力関係が築けている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 知人や友人の来訪時には、くつろげる雰囲気作りを心掛けている。また馴染みの美容院の方に出張してもらっている。 | 事業所は、利用者の知人や友人の来訪時には、楽しい時間が過ごせるように工夫している。職員は、利用者が培ってきた関係を把握し、電話での連絡を取り次いだり、家族との外出を支援したりして、つながりを継続できる支援をしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日中は出来るだけフロアで過ごし、レクリエーションや体操等を行い、利用者同士が気軽に声掛けが出来るように支援している。感情不安定な利用者には注意深く見守りトラブル防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所後も必要に応じて気軽に相談ができるような関係性を大切にしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の会話や表情により意向や希望を把握し、その都度職員間で話し合い、その人らしい暮らしができるように支援している。 | 職員は、日頃の利用者との関わりのなかで、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者には、表情の変化から意向を把握し、職員間で利用者にとって最良の暮らし方を検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人や家族、入所前の担当ケアマネと連携しアセスメントシートを作成している。また友人や知人から新たな情報を集め把握するようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者の状況が把握できるように介護記録や申し送りノートを活用し、一人一人の心身の状況や生活リズムを把握するようにしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族の意向を把握し、担当者会議を開催し参加者から意見を聞き介護計画書に反映している。またモニタリングを行い本人の状況を把握し介護計画書の見直しをしている。 | 事業所は、担当者会議を開催し、本人や家族の希望を取り入れた介護計画を作成している。また、2週間に1回のモニタリング結果をもとに、医師と話し合い、必要に応じて介護計画を見直している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 本人の健康面と1日の過ごし方や言動を個別記録に記入することで、家族や職員が利用者の状況をすぐに把握できるようにし変化に気づき介護計画の見直しに活かせるようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 身体の拘縮や下肢筋力低下防止の為、医療保険適用の在宅療養マッサージにて身体の状態に合わせた可動域訓練等を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の民生委員やボランティアの方等の協力があり、行事や面会等関わりがあることで楽しんで頂けている。 | | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 体調不良時や変化等あれば直ぐに主治医の診察がある。希望があれば職員付き添いのもと受診する体制を整えている。 | 事業所は、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。緊急時には、協力医療機関が対応する体制を整えている。事業所は、医師、看護師、家族との連携を築き、情報の共有に努めている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日頃から利用者の体調管理やバイタルチェックを行い協力医に報告・連絡をしている。 | | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した際はケアマネジャー、家族と連携し回復状況の確認を密にし退院支援を行っている。 | | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 事業所が対応できるケアを医師や管理者が説明し理解していただいている。 | 事業所は、契約時や必要に応じて、利用者や家族に終末期における事業所の方針について説明している。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 勉強会や外部の研修会にも参加し知識の習得に努めている。協力医と連携し、緊急時マニュアルを作成している。 | | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 職員、入居者ともに消防署の指導を受け、消火避難訓練を実施している。また災害に備え物品を備蓄している。 | 事業所は、備蓄品の整備や併設施設との協力体制を築いているが、定期的な訓練の実施には至っていない。また、運営推進会議での議題提示や地域住民への協力要請が行われていない。 | 年2回の避難訓練を地域住民の参加を得ながら実施されたい。運営推進会議で地域に協力を呼びかけ、事業所の災害時対策に関する理解を求め、協力体制を築いていくことが望まれる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 状況に応じた適切な対応が行えるように、日頃から声掛けや対応を十分に配慮している。 | 職員は、利用者の尊厳とプライバシーの確保について、その人らしさや利用者の気持ちを考えることを重要視している。利用者を尊重し、プライバシーを損ねないような声掛けや対応を心掛け、職員がその都度、確認に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の思いや希望を尊重し、職員が決めてしまうのではなく常日頃から自己決定が出来るように支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日の体調や気分を考慮し生活リズムを整え本人のやりたい事を重視している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 定期的に散髪や髭剃り、爪切りを実施し入浴後には化粧水や乳液を付けたり好みの服を選んでもらっている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事前にはメニューの紹介や使用している食材について皆で楽しく会話をし、皆で揃って挨拶を行い食べ始められるようにしている。 | 事業所では、職員が炊飯や汁物を調理している。主菜は、併設施設の厨房で調理している。職員は、利用者が食事を楽しめるように声かけなどの支援に努めている。近隣からいただく野菜や果物の差し入れを献立やおやつに取り入れている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事や水分摂取を記録し状況の把握をしている。変化等があれば医師や看護師に報告や相談をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、声掛けや誘導のもと義歯洗浄を行い、口腔の清潔保持を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 出来るだけトイレでの排泄を心掛け、夜間オムツ使用者の方も日中はトイレ誘導を行ったり一人一人の排泄の把握をしている。 | 職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄の支援を行っている。本人の誇りを損ねないよう、さりげない介助を心がけている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 自然に排泄が行えるようにレクリエーションや体操等で身体を動かし水分補給にも気を付けている。 | | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | その日その時の希望や状況により、いつでも入浴出来るように支援している。 | 事業所では、週2回の入浴を定め、利用者一人ひとりの羞恥心や不安感に配慮した入浴支援に取り組んでいる。一人ひとりの意向を大切に、くつろいだ気分で入浴ができるよう支援している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 生活習慣や状態を考慮し、いつでも自由に休んで頂けるように支援している。 | | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ミーティングや申し送りノート等、全職員が把握出来るようにしている。 | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人一人の趣味や得意なことを考慮し、レクリエーション時や行事等に取り入れたり、日光浴や散歩等を行い気分転換を図っている。 | | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | ホーム周辺の散歩や併設施設行事への参加希望がある時は職員と出掛けている。また家族と協力しながら時々、外出や外泊も行っている。 | 事業所は、利用者の散歩や買い物を支援している。車椅子を利用して、戸外へ出ることを支援し閉塞感を感じないよう努めている。利用者は、希望に応じ、家族の協力を得た上で、喫茶店や買い物に出かけ、生活意欲の向上に繋がっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 預り金があり、必要な時には家族や本人に説明し購入している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯電話使用の支援や、本人自らが電話をすることが困難な利用者には、家族からの電話に職員付き添いのもと行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自由に行き来が出来るようにしている。フロアには行事の写真や季節の飾りつけを行い、くつろげる空間を作っている。 | 事業所は、全体が見渡しやすい構造であり、職員の見守りにより利用者が自由に行き来できるよう工夫されている。利用者の日頃の様子の写真が飾られている。なつかしい音楽とともに利用者の歌声が響き楽しい空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | フロアにはテーブルやソファを置き、自由に過ごせるような環境が出来ている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には使い慣れた家具や寝具等を持参して頂いている。いつでもご家族も宿泊できるようにしている。 | 利用者は、居室に使い慣れたテレビなどを持ち込み、居心地よく過ごしている。また、事業所は、利用者の家族や知人の来訪時には、居室にてゆっくりと会話を楽しんでもらうために配慮をしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 生活環境に必要なトイレや浴室、廊下等には手すりを取り付ける等、利用者が不便を感じないように配慮している。 | | |